

私 そんな先生が
みたかったんです

長塚京三 瀧内公美 河合優実 黒沢あすか 松尾諭 松尾貴史
脚本・監督 吉田大八 原作 筒井康隆『敵』(新潮文庫刊)

敵

2025.1.17 [FRI]

<https://happinet-phantom.com/teki/> @teki_movie

妻に先立たれ、20年間**一人暮らし**の

元大学教授、渡辺儀助、**77歳**。

捨てきれない**煩悩**と向き合いつつも、

講演や執筆で僅かな収入を得ながら、

人間関係も整理し、遺言書を書き終え、

預貯金が後何年持つか、すなわち

自身が後何年生きられるかを計算しながら、

管理された日常を**平穩**に送っている。

自ら定めた**“Xデー”**に向かって—。

だがそんな生活にある日、**突然**訪れた**「敵」**。

それは主人公の**日常**を壊し、

我々を**恍惚の世界**へと**ダイブ**させる、

没入感へと誘う。

人生は恐ろしく、美しい—。

敵はある日突然現れる。

日本文学界最後の巨人
筒井康隆 原作

「桐島部活やめるってよ」編し絵の牙
吉田大八 監督

俳優歴50年
長塚京三

熟練を極めた

クリエイターと俳優が挑む、

人生最期の「讃歌」。

原作は、『時をかける少女』『パブリカ』などの大人気SFから、メタフィクションまで数々の作品を生み出してきた筒井康隆。毀誉褒貶の数々を経て辿り着いた現代老人文学の最高峰ともいえる本作では、いつか来る終わりに向けて生きる元大学教授の慎ましやかな暮らしが描かれるが、その先には筒井流の一筋縄では行かない「仕掛け」が待っている—。

数々の作品で確実に映画監督としての円熟期に入った吉田大八自らが長年愛読していた原作をついに映画化、第21回日本アカデミー賞優秀主演男優賞を受賞（『瀬戸内ムーンライト・セレナーデ』）し、俳優歴50年を迎えた名優・長塚京三が12年ぶりに映画主演を果たした。極めて緻密でプライベートな描写によって、我々はいつの間にか儀助の暮らしに入り込み、亡き妻・信子（黒沢あすか）を懐かしく思い出し、教え子の鷹司靖子（瀧内公美）、パーで出会った菅井歩美（河合優美）に胸をときめかせてしまう。

全ての人に等しく訪れるであろう「敵」を見事なまでに映し出した、人生最期を問う、心揺さぶる人間ドラマが誕生した。

長塚京三 瀧内公美 河合優美 黒沢あすか 中島歩 カトウンスケ 高畑遼 二瓶敏一 高橋洋 唯野未歩子 戸田昌宏 松永大輔 松尾諭 松尾貴史 脚本・監督：吉田大八 原作：筒井康隆「敵」（新潮文庫刊）
企画・プロデュース：小澤祐治 プロデューサー：江守徹 撮影：四宮秀俊 照明：秋山恵二郎 美術：富田麻友美 装飾：羽場しおり 録音：伊豆田康明 編集：曾根俊一 サウンドデザイン：浅梨なおこ 衣裳：宮本茉莉
ヘアメイク：酒井夢月 フードスタイリスト：飯島奈美 助監督：松尾謙 キヤスティング：田端利江 アクション：小原剛 ガンエフェクト：納富貴久男 ロケーションコーディネーター：鈴木和晶 音楽：千葉広樹
音楽プロデューサー：濱野睦美 VFXスーパーバイザー：白石哲也 制作プロデューサー：石塚正徳 アシスタントプロデューサー：坂田航
企画・製作：ギークビジュアルズ 制作プロダクション：ギークサイト 宣伝・配給：ハビネットファントム・スタジオ/ギークビジュアルズ 製作：「敵」製作委員会 ©1998 筒井康隆/新潮社 ©2023 TEKNOMIKATA

TOKYO FILM FESTIVAL 第37回東京国際映画祭コンペティション部門 正式出品作品 <https://happinet-phantom.com/teki/>

1月17日(金) 全国公開